

文化人類学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
文化人類学概論	文化人類学の理論と歴史 1□	2	川口 幸大	3	火曜4限
文化人類学概論	文化人類学の理論と歴史 2□	2	川口 幸大	4	火曜4限
文化人類学基礎講読	専門文献読解1	2	包 双月	3	火曜3限
文化人類学基礎講読	ネイティヴ・ツアーズ:トラ ベルとツーリズムの文化 人類学	2	越智 郁乃	4	火曜3限
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	月曜4限
文化人類学基礎演習	専門文献読解	2	包 双月	4	月曜4限
文化人類学各論	文化人類学各論	2	BORET USAGE P ENMELLEN BORE T SEBASTIEN	6	火曜2限
文化人類学演習	文化人類学演習	2	川口 幸大	5	月曜3限
文化人類学演習	文化人類学演習	2	川口 幸大	6	月曜4限
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	越智 郁乃	5	水曜3限 水曜4限
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	越智 郁乃	6	水曜3限 水曜4限

科目名：文化人類学概論

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：川口 幸大

コード：LB32402, **科目ナンバリング：**LHM-CUA201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：文化人類学の理論と歴史 1

2. 授業の目的と概要：文化人類学という学問分野について、その理論と歴史を学ぶ

3. 学習の到達目標：文化人類学の理論と歴史を習得する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 文化人類学とは① 文化とは
- 3 文化人類学とは② 人類とは
- 4 文化人類学とは③ 文化人類学とは
- 5 進化主義①
- 6 進化主義②
- 7 伝播主義
- 8 機能主義①
- 9 機能主義②
- 10 アメリカの文化人類学
- 11 文化相対主義
- 12 構造主義
- 13 象徴人類学
- 14 まとめ
- 15 総合振り返り

5. 成績評価方法：授業後のミニッツペーパー 50%

学期末考査 50%

6. 教科書および参考書：参考書『文化人類学 20 の理論』綾部恒雄(編)2006、弘文堂

7. 授業時間外学習：毎回の復習、ノート作成

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学概論

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：川口 幸大

コード：LB42401, **科目ナンバリング：**LHM-CUA201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：文化人類学の理論と歴史 2

2・授業の目的と概要：前期に引き続き、文化人類学という学問分野について、その理論と歴史を学ぶ

3. 学習の到達目標：文化人類学の理論と歴史を習得する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 前期の振り返り
- 2 構造主義
- 3 象徴／解釈人類学
- 4 実践とハビトゥス
- 5 フェミニズムと人類学
- 6 『文化を書く』と『オリエンタリズム』批判
- 7 歴史と脱構築
- 8 参与する人類学
- 9 グローバリゼーションと移動の人類学
- 10 存在論的転回
- 11 主体と ANT
- 12 マルチスピーシーズ
- 13 これからの人類と文化人類学
- 14 まとめ
- 15 総合振り返り

5. 成績評価方法：授業後のミニッツペーパー 50%

学期末考査 50%

6. 教科書および参考書：参考書『21 世紀の文化人類学：世界の新しい捉え方』前川啓治〔ほか〕著、2018 年、新曜社

7. 授業時間外学習：毎回の復習、ノートの作成

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：文化人類学基礎講読

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：包 双月

コード：LB32304, **科目ナンバリング：**LHM-CUA202J, **使用言語：**日本語
英語文献を精読

1. 授業題目：専門文献読解 1

2・授業の目的と概要：本講義では、動物や家畜に関する人類学的民族誌を精読し、人間と動物の多様な関わり方について討論を行う。そして、人間と動物の関係について理解を深め、人類学的研究方法を学んでゆく。

3. 学習の到達目標：文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Orientation
2. Introduction
3. Is humanity a natural kind?
4. Beasts, brutes and monsters
5. Animality, humanity, morality, society
6. Animal in biological and semiotic perspective
7. Animal's attitudes to people
8. The animal in the study of humanity
9. Organisms and minds: the dialectics of the animal-human interface in biology①
10. Organisms and minds: the dialectics of the animal-human interface in biology②
11. The affordances of the animate environment: social science from the ecological point of view
12. Human animality, the mental imagery of fear, and religiosity①
13. Human animality, the mental imagery of fear, and religiosity②
14. Conclusion ①
15. Conclusion ②

5. 成績評価方法：レポート[40%]、出席[20%]、その他(授業時の口頭発表と議論参加)[40%]

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学基礎講読

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：越智 郁乃

コード：LB42304, **科目ナンバリング：**LHM-CUA202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ネイティブ・ツーリズム：トラベルとツーリズムの文化人類学

2・授業の目的と概要：この授業では、Erve Chambers によるトラベルとツーリズムの文化人類学に関する英語著作の講読を通して、近代ツーリズムの発展やそれがもたらす自然や社会への影響について人類学的に理解することを目的とする。この授業は、学術的な英文の読解力向上を目指す。受講生は、教材テキストを毎回 4-5 ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。

3. 学習の到達目標：(1) 専門英語文献の読解力を養う。
(2) ツーリズムの発展に関する歴史、エコツーリズムの事例から人類学的なものの見方を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回から第15回は以下の内容の第2章から順次訳し、議論する。

1 From Travel to Tourism

Travel in Historical Perspective

The Advent of Modern Tourism

The Tourist as Subject

Case Study: Touring the American Southwest

2 Tourism, Society, and the Political Economy

Tourism and Economic Development

The Distribution of Economic Costs and Benefits

Tourism as Work

Tourism Policies and Plans

Transnational Dimensions of Tourism

The Politics of Representation

Social Consequences of Tourism

Tourism and Gender

Case Study: Tirol and Rural Tourism

3 Nature, Tourism, and the Environment

Environmental Impacts of Tourism

Tourism to Natural Places

People as Nature

Ecotourism

Case Study: Ecotourism in Belize

4 Tourism and Culture

Tradition, Authenticity, and Modernity

Tourism and Ethnicity

毎回、4-5 ページ分の訳文を準備して授業に臨み、授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。その他、人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけましょう。

5. 成績評価方法：毎回の授業での訳文の準備と口頭発表（40%）出席と議論（60%）

6. 教科書および参考書：テキストを授業中に配布する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業前に約 4-5 ページ分の訳文を準備し、授業後は授業での討論を踏まえて自分の訳文を修正する。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：文化人類学基礎演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：川口 幸大

コード：LB31404, **科目ナンバリング：**LHM-CUA203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：専門文献読解 1

2・授業の目的と概要：文化人類学の基本的な考え方と研究のされ方について学ぶ。毎回テキストに沿って特定のテーマを扱い、その主題について、および日本を含めた各地域の特性と共通性について理解を深める。

3. 学習の到達目標：基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ① イントロダクション
- ② 序章
- ③ 環境と生業
- ④ 経済
- ⑤ 移民
- ⑥ 親族と結婚
- ⑦ 法と政治
- ⑧ 民族と国民
- ⑨ 神話と宗教、呪術
- ⑩ 歴史
- ⑪ 難民、植民地
- ⑫ 開発と支援
- ⑬ 総合振り返り
- ⑭ 総合討論
- ⑮ まとめ

5. 成績評価方法：授業中の発表、発言：最終レポート＝5：5

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：文化人類学基礎演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：包 双月

コード：LB41401, **科目ナンバリング：**LHM-CUA203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：専門文献解読

2・授業の目的と概要：この授業では、最新の民族誌を精読し、文化人類学について概括的な知識を得る。そして、文化人類学の思考法と考え方を学んでゆく。

3. 学習の到達目標：基礎文献の精読と討論を通じて、文化人類学を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、イントロダクション
- 2、残されたもの
- 3ー4、進歩にかわって
- 5ー6、進歩にかわって
- 7ー8、攪乱
- 9ー10、攪乱
- 11ー12、事態のまっただなかで
- 13、事態のまっただなかで
- 14、まとめ①
- 15、まとめ②

5. 成績評価方法：レポート[40%]、出席[20%]、その他(授業時の口頭発表と議論参加)[40%]

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：文化人類学各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：BORET USAGE PENMELLEN BORET SEBASTIEN

コード：LB62202, **科目ナンバリング：**LHM-CUA301J, **使用言語：**英語

1. 授業題目：文化人類学各論

2・授業の目的と概要：本授業は、東北アジア諸国および関連地域の社会組織に対する人類学的アプローチを議論する。日本、中国、その他の近隣諸国の災害文化を背景にする。扱われる主題は、いわゆる「自然」災害と「人為的」災害の両方の災害に関連するものである。講義においては、社会的連帯、回復力、脆弱性、コミュニティなどの概念が取り上げられる。学生の数に応じて講義の後にグループ討論を実施し、最終的に全体の結論を導きます。

授業は全て対面で行います。Class Code は「yjswszq」になります。

Classroom で講義を「受講」して課題を完了させてください。

3. 学習の到達目標：このクラスの目的は、災害の文化的・社会的側面を理解していただくことです。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. 授業のイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 災害対応のアクターとアジェンダ
- X. 災害「想像の共同体」
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

5. 成績評価方法：レポートとクイズと出席

6. 教科書および参考書：教科書がなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。

参考：スザンナ・M. ホフマン, アンソニー オリヴァー=スミス (2006) 災害の人類学

7. 授業時間外学習：読書(論文とチャプター)を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

学修の到達目標は、災害の文化的・社会的側面を理解していただくことです。

9. その他：

授業は全て対面で行います。

科目名：文化人類学演習

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：川口 幸大

コード：LB51307, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：文化人類学演習

2・授業の目的と概要：文化人類学の知識を展開させ、自分の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：毎回、文化人類学の重要な理論の講読と議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には卒業論文の研究計画書の草稿を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 研究構想の発表
- 3 人類学のあけぼの
- 4 進化主義①
- 5 進化主義②
- 6 文化相対主義①
- 7 文化相対主義②
- 8 機能主義①
- 9 機能主義②
- 10 構造主義①
- 11 構造主義②
- 12 象徴人類学
- 13 解釈人類学
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50％）＋研究計画書（50％）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、研究の進展状況の発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：川口 幸大

コード：LB61404, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：文化人類学演習

2. 授業の目的と概要：これまでに学んできた文化人類学の知識を展開させ、自分の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：毎回、文化人類学の重要な理論の講読と議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には卒業論文の研究計画書を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 研究構想の発表
- 3 ジェンダーの文化人類学
- 4 文化人類学への批判
- 5 構築主義と文化人類学
- 6 公共と文化人類学
- 7 グローバリゼーションと文化人類学
- 8 認識論と存在論と文化人類学
- 9 アクター・ネットワークセオリーと文化人類学
- 10 マルチスピーシーズの文化人類学
- 11 文化人類学の向かう先
- 12 まとめ
- 13 総合討論
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50%）＋研究計画書（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、研究の進展状況の発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：越智 郁乃

コード：LB53307, **科目ナンバリング：**LHM-CUA303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2・授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目指す。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画を立案する。

3. 学習の到達目標：文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 調査手法、フィールドノートの取り方
4. 研究調査倫理
5. 調査対象の検討①
6. 過去の実習テーマの検討
7. 過去の実習テーマの検討
8. 過去の実習テーマの検討
9. 調査対象の検討②
10. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論①
11. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論②
12. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論③
13. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論④
14. フィールドワーク計画の報告と討論①
15. フィールドワーク計画の報告と討論②

5. 成績評価方法：出席[30%]、発表と議論[40%]、文献レビューと調査計画に関するレポート[30%]

6. 教科書および参考書：特定の教科書は用いず、必要資料は講義前に classroom にて適宜配布する。

7. 授業時間外学習：フィールドワークに向けたテーマ設定、文献調査等を事前に行った上で、各自のテーマに沿ったフィールドワークを遂行し、フィールドノートを作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：文化人類学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：越智 郁乃

コード：LB63309, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2・授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目指す。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

3. 学習の到達目標：文化人類学によるフィールドワークを行い、結果を調査報告書として仕上げる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の章立て・節だて①
12. 報告書の章立て・節だて②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

5. 成績評価方法：発表と議論 [50%] 実習報告書 [50%]

6. 教科書および参考書：テキストはクラスルームを通じて適宜配布する

7. 授業時間外学習：フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：